

平成25年 4 月 1 日

公益社団法人に移行

—名称は「公益社団法人宮城県芸術協会」—



公益社団法人
宮城県芸術協会
(郵便番号 980-0802)
仙台市青葉区二日町16-1
二日町東急ビル5-B
電 話 (022) 261-7055
F A X (022) 214-5184
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
発行者 早坂 貞彦

「はなやま」の題号は、
芸協の創設が宮城県
花山村(現栗原市花
山)湖畔亭の会合で
決まったことにちな
んで付けられた。

当協会は本年四月一日、仙
台法務局に社団法人の解散と
公益社団法人の登記を行い、
名称を「社団法人宮城県芸術
協会」から「公益社団法人宮
城県芸術協会」に変更した。
これで長年懸案であった公益
法人化が実現し、より公益性
の高い活動を目指して新たな
スタートを切るようになった。

当協会は、昭和三十九年五
月に任意団体として創設され、
平成四年からは県の認可を受
けて社団法人として活動して
きた。今回の公益法人化は平
成二十年からの公益法人制度
改革に伴うもので、各法人は
改めて公益性が厳しく審査さ
れ、①公益性が認められて引
き続き社会的使命を持つ公益

法人として活動を続けるか②
公益性が認定されず一般法人
となるか③そのまま解散させ
られて財産を没収されるかの
岐路に立たされていた。
こうした制度改革に対応する
ため、平成二十一年に「公益社
団法人等検討委員会」を発足
させ、公益法人、一般法人のど
ちらの道をとるか検討を行っ
た。平成二十二年の通常総会
で公益社団法人への移行を目指
して準備を進めることを決議し、
「公益社団法人移行準備委員
会」を設置。準備委員会では三
年間にわたり定款や諸規程の整
備に努め、昨年八月の臨時総会

での決議を経て、県知事に公益
社団法人移行認定申請書を提出
した。申請は県公益認定等委員
会で審議され、十二月に公益法
人への移行が答申されていた。
当協会の機関紙「はなやま」
の題字を今号から変更、協会
創設直後のものに戻した。図
案は早坂理事長による。
この題字は昭和三十九年の芸
協発足に尽力された、当時の
宮城県議会議長・故門伝勝太
郎氏の揮毫。昭和四十二年一
月の第五号から平成八年四月
の第一二七号まで使用された。

今春より当協会は「社団法
人」から「公益社団法人」に
生まれ変わりました。
本年は社団法人設立から満
二十一年、公益社団法人への
移行を実現でき
た慶事を皆様と
共に慶びたいと
存じます。



新しい革袋に新しい芳醇な酒を

理事長 早坂 貞彦

以上は、会員のためだけにど
どまらない、会員と県民共々
に芸術振興に関わっていくこ
れからの在り方を加味して、
検討を進めて参りました。

この度の移行にあたって大
きな決断は、社会的に信頼ある
団体の一員として芸術に関す
る私達の言動は重いことを自
覚しなければいけない事です。
最近の芸協の活動には、何
か新しい芽吹きが感じられま
す。未来を担う会員を期して
の公募展やコンクール、芸術
伝承を目指した出前講座、多
岐な分野を生かしたコラボ企
画など、そのい
ずれもが社会に
芸術の輪を広げ
る望ましい方向
性に沿うものです。

新しい「革袋」に新しい芳
醇な酒が満たされるよう、来
年の創立五十周年に向かって
一緒に歩んで参りましょう。

従前より会の目的を「宮城
県における芸術文化の振興発
展への寄与」とし、公益性に
富んだ事業を展開して参りま
した。今回の改定ではこれま

この検討にあたり、総会、
理事会、公益社団法人移行準
備委員会等々、この一年だけ
でも50回にも及ぶ会合を重ね、
芸協の憲法である定款と12の

切な事は、社会的に信頼ある
団体の一員として芸術に関す
る私達の言動は重いことを自
覚しなければいけない事です。
最近の芸協の活動には、何

最近の芸協の活動には、何
か新しい芽吹きが感じられま
す。未来を担う会員を期して
の公募展やコンクール、芸術
伝承を目指した出前講座、多
岐な分野を生かしたコラボ企
画など、そのい
ずれもが社会に
芸術の輪を広げ
る望ましい方向
性に沿うものです。

新しい「革袋」に新しい芳
醇な酒が満たされるよう、来
年の創立五十周年に向かって
一緒に歩んで参りましょう。

5月18日

公益社団法人初の定時総会 —会場は仙台市福祉プラザ—

平成二十五年度の公益社団法人宮城県芸術協会定時総会は、五月十八日午後二時四十分から仙台市青葉区五橋の仙台市福祉プラザふれあいホールで開催される。

当協会は本年度から公益社団法人として、事業内容および財務基準が新たな制度下に置かれ、厳正な運営が求められる。また、より公益性の高い事業の実施が求められることから、今年の芸術祭では公募展をはじめとする各催事に、会員以外の一般の参加機会を一層促すこととなる。

総会に提案される平成25年度事業の概要は次のとおり。

第五十回宮城県芸術祭は、九月二十日の開会式から十一月二十一日の閉会式まで。展示関係事業は絵画、彫刻、写真の三部門が公募展を、巡回展事業としては、工芸、写真、絵画、書道展を計画している。演奏関係事業の音楽会では外

部出演者を招く予定。文芸関係事業は文学散歩、宮城県文芸年鑑の発行、文芸祭を計画。このほか、茶会、芸術祭受賞者美術展、人材育成事業として県民との美術交流（ギャラ

リートーク）などでも会員以外との接触が企画されている。また、芸術文化交流事業として、大邱及び東北・北海道芸術文化団体協議会との交流を継続。東日本大震災復興支援事業としては、本年度も書道部による被災地区校名板・

校歌額寄贈、洋楽部による「被災地に音楽を届けようプロジェクト」を実施する。

記念講演は仙台フィル参与の大澤隆夫氏

総会に先立ち、午後一時三十分から約一時間、仙台フィルハーモニー管弦楽団参与で、音楽の力による復興センター・東北の代表理事も務める大澤隆夫氏の記念講演がある。演

題は「公益法人の新しい役割 —仙台フィルの事例から—」で、公益社団法人初の定時総会に相応しい内容となる。

宮澤氏が理事に就任

公益社団法人への移行に伴い、昨年度総会の決議にもとづき、外部役員である金成有

造理事（河北新報社）と片倉義和監事（カメイ社会教育振興財団）が退任した。また、金成氏の後任として、邦楽部の宮澤寒山氏が理事に就任し、監事は一名減員となった。

各部門の部長・副部長

四月一日現在の各部門の部長、副部長は次のとおり（敬称略。◎部長、○副部長）。

【絵画部】◎桜井忠彦、○吉田利弘【彫刻部】◎菅原裕○大槻俊之、○虎尾裕【工芸部】◎浅野治志、○近藤孝則

【書道部】◎千葉蒼玄【華道部】◎本内一磯、○朴澤一草【洋楽部】◎渡部勝彦【邦楽部】◎杵屋和加喜久【文芸部】◎あきた・じゅん、○坂内佳禰【茶道部】◎大和田宗嬌、○鎌田宗節【写真部】◎笹川義信、○永井優

◆新運営委員

（敬称略）
【工芸部】村上世一【書道部】阿部松山、岩澤芳華、高野芳月【洋楽部】相澤富美江、猿橋麻里子、八島秀、渡辺真理

諸規程の整備も進む

法人運営規程を大幅に改正

公益社団法人移行にあたり、新定款に適合する諸規程等の制定や見直しも進んでいる。

これまでに、公益社団法人移行準備委員会で検討を行った法人運営規程、常任理事会運営規則、理事長及び執行理事の職務分掌規程、事務局組織規程、文書取扱規程、印章管理規程、経理規程、職員就業規程、職員給与規則、旅費規則の十件が、理事会の議決

を経て制定されている。これに昨年八月の臨時総会で制定された役員の報酬等及び費用に関する規程、入会金・会費規程を加えると、新しい諸規程がほぼ整ったことになる。他にも制定すべき規程等はいくつかあり、今後順次制定することになっている。

諸規程のうち、当協会の運営上重要な「法人運営規程」は、芸協のさらなる活性化を目的

に今回大幅に改正された。重要な改正点は次のとおり。

- ① 音楽部門が洋楽部と邦楽部（邦楽・長唄）に分かれ、全体で十二部門体制となった。
- ② 役員就任に年齢制限が設けられ、理事・監事ともに選出年度当初に七十五歳未満でなければならぬとされた。
- ③ 従来の主任・副主任は部長・副部長に名称が変わり、部門を代表し、芸術祭実行委員会を兼ねることになった。また、部長会議を構成し、部の意見を芸協の運営に反映させる役割も担うことになった。

韓国芸術文化団体総連合会
大邱広域市連合会との交流事業は、九月六日に大邱文化芸術会館で行われる。

今年、舞台芸術による交流ということで、演劇部、洋楽部、邦楽部、文芸部、写真部、書道部、絵画部による大規模なコラボが企画されている。大震災の直後、大邱市の芸術家によって寄せられたご

大邱との交流事業 今年、舞台芸術 9月6日 大邱で開催

支援への感謝、返礼をこめた演目が、各部門の実行委員を通して練られている。

約一時間にわたる演目は、三部作で、一被災地から感謝を伝える一をサブタイトルに「あなたの声を道しるべに」(仮称)を予定している。公益法人になった芸術の今後の活動のステップの一つとしても期待される。

ギャラリートークも好評

カメイ美術館との共催絵画展

当協会とカメイ美術館の共催による絵画展「自律の様相」が、一月二十九日から三月十日まで、仙台市青葉区のカメ



来場者で賑わったギャラリートーク

イ美術館で開かれた。県芸術祭絵画展の審査員を務める三十一人の自選作品展で、会期中の入場者は一、七三二人。二月九日午後には、出品者によるギャラリートークが開かれ、こちらも約八十人が来場して大変好評だった。

第33回ピアノコンクール

知事賞に伊東大輝さん

当協会主催の第三十三回音楽コンクール(ピアノ部門)本選が三月十七日、仙台市戦災復興記念館で開かれた。二月の予選を通過した計三十四人が審査に臨んだ。

その結果、特別賞の三人はいずれも中級で、最高賞の宮城県知事賞に伊東大輝さん、仙台市長賞に津田隼大さん、河北新報社賞に伊藤広貴さんが、それぞれ選ばれた。各級の受賞者は次の通り(敬称略)

【初級】
最優秀賞 橋浦有咲(富谷町立東向陽台小3年)、斉藤裕大

(仙台市立西多賀小3年)、優秀賞 晴山由梨(仙台市立荒巻小2年)、奨励賞 富澤梨々花(富谷町立東向陽台小3年)、作曲者賞 齊藤裕大

田隼大(仙台市立福室小5年)、奨励賞 小田悠稀(仙台市立川平小5年)、作曲者賞 高森春花(仙台市立桂小6年)

【中級】
最優秀賞 伊東大輝(仙台市立館小4年)、優秀賞 伊藤広貴(仙台市立袋原小4年)、津

最優秀賞 薄木葵(仙台市立広瀬中3年)、優秀賞 児玉楓子(仙台市立南光台小5年)、作曲者賞 薄木葵

能島和明参事に芸術院賞

宮城県からは初めての快挙

当協会参事で日本画家の能島和明さんが、2012年度の日本芸術院賞に選ばれた。宮城県からの芸術院賞受賞は初めて。授賞式は七月八日、日本芸術院会館で行われる。

美大卒。故奥田元宋氏に師事し、1972年に日展特選、2009年日展文部科学大臣賞、1973年には宮城県芸術選奨を受賞。

能島さんは栗原市出身。現住所は横浜市だが、栗原市栗駒耕英にアトリエを構えて、栗駒山の自然や鶴岡市の伝統芸能「黒川能」などをモチーフにした作品を制作している。

2002年から12年まで当協会の理事を務め、現在は参事。日展評議員、河北美術展顧問も務めている。



受賞対象となった「鐘巻」(黒川能)

杜の都大茶会 5月25・26日開催

当協会と河北新報社が主催する第十七回杜の都大茶会

円、当日券は一席分七百円、二席分千二百円。流派ごとの日程は次のとおり。

は、仙台市青葉区の勾当台公園を会場に五月二十五日(土)二十六日(日)の二日間

◇五月二十五日(土) 江戸千家、玉川遠州流、煎茶道三彩流、煎茶道清泉幽茗流、宗徧流、裏千家

たり開催される。芸協茶道部加盟の十三流派が七つの茶席でお点前を披露する。

◇五月二十六日(日) 煎茶文雅静庵流、武者小路千家、織田流煎茶道、遠州流茶道、石州清水流、大日本茶道学会、表千家

文学散歩は9月25・26日 象潟・庄内文学の旅

平成二十五年度の文学散歩は九月二十五日、二十六日の一泊二日

る。参加資格は会員、一般を問わないので、広く紹介をお願いしたい。計画概要は次のとおり。【期日】九月二十五日(水)二十六日(木)【場所】鶴岡、酒田方面【テーマ】象潟・酒田・鶴岡文学の旅―芭蕉の足跡と藤沢周平の原風景をたどる―【集合】仙台駅西口バスプール、午前八時三十分【解散】仙台駅西口バスプール午後六時【宿泊】あつみ温泉【参加費】二万三千円程度。本年度の運営担当は川柳部門。

平成 25 年度 新入 会員 名簿

部 門	氏 名(本 名)	住 所	部 門	氏 名(本 名)	住 所
【絵画部】			【華道部】		
〈日本画〉	阿部 淑子	塩釜市	〈草月〉	場地 嬉實子(君子)	仙台市青葉区
〈日本画〉	熊谷 眞由美	仙台市青葉区	〈本原遠州流〉	佐藤 一 泰(泰子)	仙台市青葉区
〈日本画〉	高橋 慶佐	大崎市	〈本原遠州流〉	高草 木 操(みさを)	仙台市太白区
〈日本画〉	高橋 紀子	名取市	〈本原遠州流〉	武田 一 一(琴江)	仙台市太白区
〈洋画〉	大竹 幸子	仙台市泉区	〈本原遠州流〉	豊澤 一 洋(洋美)	仙台市太白区
〈洋画〉	近江 節子	仙台市太白区	〈本原遠州流〉	細谷 一 清(きよ子)	加美郡加美町
〈洋画〉	金子 玲子	仙台市青葉区	【洋楽部】	岩倉 敦子	仙台市青葉区
〈洋画〉	黒崎 明子	仙台市青葉区		千原 静子	登米市
〈洋画〉	黒田 賀世子	仙台市泉区		吉川 博之	仙台市太白区
〈洋画〉	小林 道子	仙台市泉区		吉川 真理	仙台市青葉区
〈洋画〉	佐野 福代	仙台市泉区	【邦楽部】		
〈洋画〉	鈴木 司	黒川郡富谷町	〈長唄〉	杵家 弥島枝(小出恵子)	仙台市青葉区
〈洋画〉	鈴木 紘美	栗原市	【文芸部】		
〈洋画〉	鈴木 澤みつ子	名取市	〈詩〉	大林 美智子	仙台市宮城野区
〈洋画〉	畑中 良二	石巻市	〈詩〉	及川 良子	気仙沼市
〈洋画〉	渡辺 京子	仙台市宮城野区	〈詩〉	笠原 千衣(菅野千津子)	白石市
【彫刻部】			〈詩〉	日野 修	仙台市太白区
	相澤 オサム(修)	仙台市太白区	〈詩〉	渡部 俊慧(俊彦)	仙台市青葉区
	庄司 こずえ	亶理郡山元町	〈短歌〉	相澤 寿美子	仙台市太白区
	星 タクマ(宅磨)	名取市	〈短歌〉	野田 幸代	仙台市宮城野区
【工芸部】			〈俳句〉	阿部 竹子	仙台市宮城野区
〈染織〉	小野寺 泰子	仙台市泉区	〈川柳〉	千葉 フミ	仙台市青葉区
【書道部】			〈川柳〉	水戸 一志	宮城郡利府町
	山田 翠香(多香子)	仙台市宮城野区	〈川柳〉	佐藤 明	仙台市泉区
	大場 修	黒川郡大和町	〈川柳〉	飯田 ふく江	岩沼市
	高野 舜一	仙台市太白区	〈小説〉	難場 勇人(井上康)	仙台市青葉区
	遠藤 珠玉(厚子)	多賀城市	【舞踊部】	若柳 梅京(麻生葉美)	白石市
	石垣 比彩(及川比呂子)	仙台市宮城野区	【茶道部】		
	伊東 美園(利美子)	大崎市	〈江戸千家〉	郷湖 宗裕(裕子)	仙台市泉区
	荒井 美翠(由美子)	大崎市	〈織田流煎茶道〉	工藤 南嶺(れえ子)	名取市
	小元 佳香(佳子)	大崎市	〈織田流煎茶道〉	八島 南佳(佳世)	仙台市宮城野区
	横山 洋紅(洋子)	登米市	〈玉川遠州流〉	亀岡 晋久(久子)	仙台市若林区
	後藤 蓮(あい)	栗原市	〈玉川遠州流〉	團鏡庵 晋荷(吉田京子)	仙台市若林区
	中園 翠由(由扶子)	大崎市	【写真部】		
	赤川 恵舟(千枝)	仙台市太白区		吾妻 克美	柴田郡大河原町
	熊谷 彩雲(寛子)	仙台市宮城野区		猪飼 正弘	仙台市青葉区
	日野 象風(祐一)	仙台市若林区		稻継 昌毅	仙台市宮城野区
【華道部】				落藤 英節	大崎市
〈池坊〉	片倉 春風(政子)	仙台市宮城野区		佐藤 義子	仙台市青葉区
〈池坊〉	田口 洋香(洋子)	登米市		高野 義玄	白石市
〈池坊〉	山田 草女(留美子)	仙台市宮城野区		竹内 加代子	石巻市
〈古流松籬会〉	馬場 理哲(哲子)	仙台市泉区			
〈草月〉	赤間 香友(山口友美)	仙台市青葉区			

磯の風景が美しい由良の浜海岸



絵画部スケッチ研修会

Ⅱ新緑の月山・潮風のささやく

由良の浜を描くⅡ

5月25・26日

本年度のスケッチ研修会

は、山形県庄内地方に足を延ばす。山々に抱かれた田麦俣郷の多層民家、新緑輝く月山・鳥海山の山麓、日本海ならではの夕景の素晴らしい由良の浜など、山間部から海辺に及ぶ変化に富むスケッチが楽しめる。参加者それぞれの個性あるお互いのスケッチを見せ合うのも、大きな楽しみの一つである。

研修中に相互の親睦を深めることも目的にしている。絵画部以外の一一般の人参加できるのも、初めての方も含め多数の参加を期待する。

【募集要項】

日時：5月25日(土)26日(日)
宿泊地：由良温泉ホテル八乙女(電話〇二三五―七三―三八―)

参加費：二万五千円
募集人数：四十人(定員にな

りしだい締切)
申込先：芸術協会事務局(〇二二―二六一―七〇五五)
〈日程〉※天候等により変更になる場合があります。
◇5月25日(土)8時30分仙台駅西口バスプール集合↓田麦俣郷多層民家スケッチ↓松ヶ岡開墾場(昼食)月山・鳥海山スケッチ↓由良の浜スケッチ↓ホテル八乙女到着
◇5月26日(日)ホテル出発↓由良の浜スケッチ↓庄内おぼこの里こまぎ(昼食)↓善宝寺見学↓庄内平野と月山スケッチ↓17時30分頃仙台駅到着、解散

「北斗」第37号を発行

―東北・北海道芸文協―

特集は後継者育成への取り組み

東北六県と北海道の芸術文化団体で構成される「東北・北海道芸術文化団体協議会」

による「北斗」第三十七号が発行された。特集は「わが

県・道の後継者育成の取り組みについて」。各団体にとって最大の課題の一つと言える

本テーマについて、各地区の現状や取り組みが報告された

内容となっている。当協会では、昨年度立ち上げた展示三部門の公募展を報告。記事は栗石隆子副理事長、桜井忠彦絵画部主任、菅原裕

彫刻部主任、笹川義信写真部主任が執筆した(役職名は記事掲載時)。在庫に余裕があるので入手希望の方は事務局へ。

鈴木登君の死を悼む

名誉会員 渡 辺 雄 彦



親友の鈴木登君が長い闘病生活の末、一月十九日にこの世を去った。自宅療養中ではあったが、私にとっては急に逝ってしまった

感が強く、鈴木夫人から電話で報らせを受けた時は一瞬信じられない気持ちで声も出なかった。たまに見舞った際も、からだは不自由でも頭はしっかりしていたし、特に生命にかかわる様子は見られなかった。日頃撰生している分、私より長生きするかも知れないと思っていた程である。

鈴木君との出会いは、東北大学に入学した時に遡る。彼は古川高校を卒業してから鳴瀬中学校で二年間代用教員を務め、それから大学に入ってきたので、みんなの先輩格でリーダー的存在であった。当時、共に大学に來られたばかりの杉村惇先生の指導を受け、本物の油絵というものに触れた思いであった。彼は

在学中に河北展で受賞するなど、めきめき腕を上げ、卒業後はお互いに河北展、宮城県芸術協会展、光旗会展、中央の光風会展、日洋展、日展と出品を続けた仲で、良きライバル的存在であった。

鈴木君は卒業後、築館高校、宮城二女高、宮城学院女子大学で教えながら、それぞれの団体に出品を重ね、日洋会会員、河北展顧問、県芸術協会理事まで上りつめた努力の人であった。

彼の順風満帆に思えた人生も晩年には病魔に襲われた。制作が出来なくなるといって、絵描きにとつて最も悲しいことが現実になったのである。さぞ辛かっただろうと思う。彼にはもう一度、画業の総仕上げのチャンスを与えて欲しかった。彼も残念だったに違いない。

鈴木君には多くの共通体験を通して沢山の素晴らしい想い出をいただいた。本当にありがとう。ご冥福を祈ります。

鈴木君には多くの共通体験を通して沢山の素晴らしい想い出をいただいた。本当にありがとう。ご冥福を祈ります。

事務局日誌

会務報告

- 2・18 理事会
 - 公益社団法人移行に伴う諸規定等の制定について
 - 宮城県芸術協会50周年記念事業実行委員会の設置について
- 3・15 評議員会
 - 公益社団法人移行に伴う諸規定等の制定について
 - 平成25年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
 - 平成25年度仙台・大邱国際交流事業について
- 宮城県芸術協会50周年記念事業実行委員会について
- 3・22 理事会
 - 公益社団法人移行に伴う諸規定等の制定について
 - 平成25年度仙台・大邱国際交流事業について
 - 平成25年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
 - 新入会員(正会員)の承認について
 - 会員の除名について
 - 3・25 顧問会
 - 公益社団法人への移行について
 - 顧問の役割について
 - 平成25年度事業計画について

事務局から

◆会費納入のお願い

新年度を迎えましたので、平成二十五年度会費の納入をお願い致します。自動振替の会員は、今年四月三十日が引き落とし日となりますので、指定口座をご確認の上、お手配願います。

郵便振替ご利用の会員は、同封の払込取扱票で五月三十一日までに納入願います。なお、郵便振替の方は、事務処理上、できる限り自動振替(手数料は芸協負担)への切り替えをお願い致します。

◆会員名簿発行について

昨年度に引き続き平成二十五年度も会員名簿を発

行する年となります。名簿は隔年発行ですが、公益社団法人への名称変更に伴い、六月三十日付けで「平成二十五年版」を発行いたします。記載事項に変更のある会員及びプライバシー保護の観点から、住所や電話番号掲載の辞退をご希望の会員は、五月末日までに事務局(電話022-26117055)までご連絡願います。辞退者は所属部門と氏名のみ掲載となります。

また、名簿には広告も掲載しており、ご希望があれば事務局までご連絡下さい。料金は一ページで三万五千円、二分の一ページで一万四千円、五分の一ページで七千円です。

後援

- ☆2013みやぎの書60人展 4月26日～5月1日
- ☆せんだいメディアアテーク 第2回書連会書道展 5月1日～6日
- ☆東北電力グリーンプラザ 東北学院大学・宮城教育大学マンドリンコンサート 5月11日
- ☆仙台市戦災復興記念館 仙台市戦災復興記念館 5月17日～22日
- ☆第59回全国公募東北書道展 5月17日～22日
- ☆せんだいメディアアテーク 5月17日～20日
- ☆蓮紅社書展 5月17日～20日
- ☆せんだいメディアアテーク 5月28日～7月28日
- ☆カメイ美術館
- ☆チルコロ・マンドリニスティコ・フロラ第27回ソロとアンサンブルの集い 6月8日
- ☆仙台市戦災復興記念館
- ☆「日本画を楽しむ」作品展 6月14日～19日
- ☆せんだいメディアアテーク
- ☆仙台女流美術協会・徳島絆グループ展 6月21日～26日
- ☆せんだいメディアアテーク
- ☆第65回三軌展東北展 6月21日～26日
- ☆せんだいメディアアテーク
- ☆第59回全国公募南書道展 6月29日～7月3日

☆せんだいメディアアテーク 第20回一般社団法人二科会写真部宮城支部展 6月29日～7月4日

会員の入賞・入選など

- ◆第48回日春展入選
 - 〈日本画〉安住小百合、天笠慶子、奥山和子、吉田輝
- ◆第31回上野の森美術館大賞展入選
 - 〈日本画〉奥山和子
 - 〈洋画〉佐藤光郎、阿部好江
- ◆第68回春の院展入選
 - 〈日本画〉三浦長悦
- ◆第9回 タムロン マクロレンズフォトコンテスト金賞
 - 〈写真部〉古内克永

受贈図書

心の萬葉集(日下常由)、美貌の刺客仙台維新譜(牛島富美二)、第1回東北川柳文学大賞 弱虫(伊藤豊志、夜明けの光(阿部文彦)、はじめての茶道(田中仙融)

謹 弔

音楽部(邦楽) 佐々美枝勢殿 平成24年12月

絵画部(洋画) 鈴木登殿 平成25年1月19日

文芸部(俳句) 赤間白石殿 3月2日

文芸部(詩) 高木肇殿 3月15日

けやきの譜

長く、例年以上に厳しかった冬も終わり、大震災の被災地を含む各地で、桜も咲いた。春四月。当宮城県芸術協会も、新しいスタートを切った。公益社団法人への移行である。移行準備委員会では23回もの会議を重ね、定款の変更や公益目的事業の設定などの検討を続けてきたが、晴れて移行の日を迎えることになった。今後は、より透明性の高い運営を求められ、事業の展開にも常に高い公益性を意識することが望まれる。将棋の故升田幸三名人は「一步勝敗」の金言を座右の銘にした、とされるが、芸協の会員すべてがその「一步」になる必要がある。▼公益法人への移行に合せて「はなやま」の題字を変更、創刊直後のものに戻した。芸協の創設に尽力された故門伝勝太郎元宮城県議会議長の筆だが、門伝さんは貫禄と威厳を備えた大物政治家でありながら、私たち若い新聞記者の意見にもキチンと耳を傾けてくれた。あらためて、学ばなければ、と思う。(恂)